

下関市 男女共同参画レター 14

社会における女性活躍の推進

女性がその力を遺憾なく発揮し活躍するためには、周囲の人々の協力と理解が欠かせません。また、

女性がいきいきと活躍できる環境は、周りの皆さんもいきいきと活躍できる環境です。「女性の活躍」を推進していくためには、組織のリーダーをはじめとするすべての人が、その必要性を正しく理解し、一体となって取り組むことが重要です。

本市では第4次下関市男女共同参画基本計画に基づいて、男女に関わりなく、誰もが輝ける社会の実現のために様々な取組を行っています。

女性活躍推進セミナー

「多様な人材を活かし共創の社会へ」



令和5年2月8日生涯学習プラザで、有限会社ゼムケンサービス代表取締役 籠田淳子氏を講師に迎え、女性活躍推進セミナーを開催しました。

男性が多数を占める建設業界において、弱みとされてきた女性をワーク・ライフ・バランスとワークシェアリングを経営戦略とすることで、「強み」へと転換させた内容などお話しいただきました。

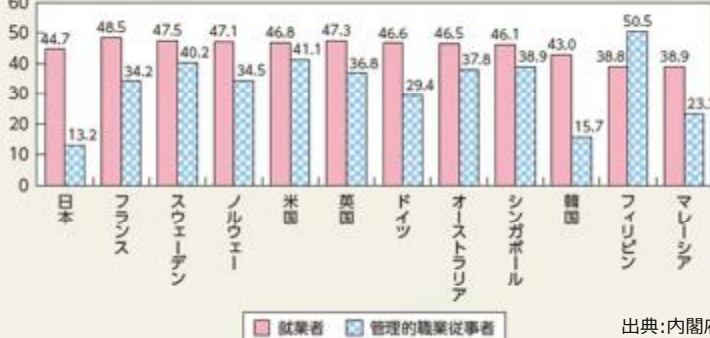
受講者の声

- ・女性だけ（9名中8名ですが）の建設会社と聞いて大変驚きました。女性目線でのお話し、大変勉強になり参考になりました。（50代、女性）
- ・実体験にもとづいた話しだったので、聞きやすく大変おもしろかった。（30代、男性）

男女共同参画白書

就業者に占める女性の割合は、日本は令和3年は44.7%であり、諸外国と比較して大きな差はありません。一方、管理的職業従事者に占める女性の割合は、諸外国ではおおむね30%以上となっているが、日本は令和3年は13.2%となっており、諸外国と比べて低い水準となっていることがわかります。

『諸外国の就業者及び管理的職業従事者に占める女性の割合』



出典：内閣府男女共同参画局



男女共同参画図書コーナー新着図書

1974年、東京国立博物館で開催された『モナ・リザ展』一般公開初日。「人類の至宝」と称されるこの絵画に、一人の女性が赤いスプレー塗料を噴射した。女性の名前は米津知子。なぜ彼女はこのような行動に及んだのか。

男女共同参画講座

「地域介護と『女性らしさ』『男性らしさ』 ～介護する側される側～」

令和4年10月8日（土）勝山公民館、10月29日（土）菊川ふれあい会館にて、医療法人松永会オレンジカフェ（認知症カフェ）でホールスタッフとして働いている桶本健児氏を講師に迎え講座を開催しました。

桶本氏は航空自衛隊、民間企業を経て、現在介護職に就かれており、介護の現場での経験をもとに、共に協力し助け合うことの大切さをお話いただきました。

受講者の声

- ・どんな年齢でもお互いの助け合いが必要であると再認識しました。（50代、女性）
- ・男女それぞれに良さがあり、ひとつのコミュニティで混ざり合うことでより良いコミュニティが生まれるのだろうと考えさせられた研修だった。（30代、男性）



ハッピーマイライフセミナー

①「腸活でころもからだもイキイキ！」

令和5年1月28日（土）川中公民館にて、ラマアールルーメン代表の秋枝輝美氏を講師に迎えセミナーを開催しました。

腸に関する詳しい説明から、バランスの良い食事や適度な運動などの生活習慣を見つめ直すことで、腸内環境をより良くしていくことを教わりました。最後は参加者全員で腸活ストレッチを行いました。

受講者の声

- ・腸内環境の大切さを学び健康の為、明日から取り組みたいと思います。（50代、女性）
- ・「健康は資産」だと思います。腸のケアは健康につながると思うので食事、運動、生活リズム（睡眠など）を整えていきたいと思います。（40代、女性）



②「イライラがニコニコに変わる アンガーマネジメント」

令和5年2月25日（土）川中公民館にて、セラピールーム*Conpeito代表の中村明子氏を講師に迎えセミナーを開催しました。

怒りの感情と上手に付き合うためのアンガーマネジメントでは、怒らないことを目指すものではなく、感情や思考を上手にコントロールし、問題解決につなげる手法などお話しいただきました。

受講者の声

- ・これからの新しい自分を作り出せそうだと思います。（10代、女性）
- ・「相手は自分を映す鏡」という言葉が心に残りました。相手を変えようとするのではなく、自らが変わらなければならないと思いました。（60代、女性）



女性に対する暴力をなくす運動



全国で毎年の恒例となっているパープルライトアップを施設の協力により、「海峡ゆめタワー」、「消防局・中央消防署合同庁舎」、「はい！からっと横丁大観覧車」で実施し、今回は新たに「豊北歴史民俗資料館（太翔館）」にご協力いただき実施しました。

内閣府では、毎年11月12日から11月25日までを「女性に対する暴力をなくす運動」期間としています。

期間中の令和4年11月17日（木）に下関市立大学の学生を対象にイベント・L代表の松橋美恵子氏を講師に迎え、「人と人とのよりよい関係～デートDVを知っていますか？～」を開催しました。実例を挙げたお話しがあり、学生のみなさんが今後活かせる講座となりました。



豊北歴史民俗資料館（太翔館）

男女共同参画月間パネル展の開催

山口県では、毎年10月を男女共同参画推進月間と定め、重点的に普及啓発を行っております。本市でも期間中は、男女共同参画への理解と関心を深めていただくため、総合支所でパネル展を実施しました。



菊川総合支所



豊田総合支所



豊浦総合支所



豊北総合支所



若年層に向けたデートDVに関するパンフレット「大切にしたい自分も相手も ~デートDVを知っていますか?～」を作成しました。





人権・男女共同参画課では、男女共同参画に関連した貸し出し用図書（約400冊）を市役所 本庁舎 西棟4階の食堂前に備えています。身分証明書をご持参の上、ご利用ください。（貸出期間 2週間以内）

この参画レターは、下関市立公民館をはじめとする社会教育施設（生涯学習プラザ・市立図書館等）に配布しています。

<p>『あなたにもある無意識の偏見』 北村英哉 人間関係に悪影響を与える「無意識の偏見」。失言や好まれざる態度を抑え、致命的な失敗をしないための知恵を教える！ 単身赴任中と聞くと、父親だと思ふ…シニアはパソコン、スマホが苦手…定時退社の社員は頑張っていない…。政治家の失言、テレビCM 炎上の正体！。</p>	<p>『正欲』 朝井リョウ 息子が不登校になった検事・啓喜。初めての恋に気づいた女子大生・八重子。一つの秘密を抱える契約社員・夏月。ある人物の事故死をきっかけに、それぞれの人生が重なり合う。しかしその繋がりは、「多様性を尊重する時代」にとってひどく不都合なものだった。</p>
<p>『うらやましい孤独死』 森田洋之 ボケても、家族がいなくても「理想の死」は迎えられる。コロナ禍の時代、「理想の死」の見つけ方。</p>	<p>『誰もこの涙に気づかない』 杉山成子 夫の和之にたびたび暴力を振るわれていた映子は家を飛び出した。DV シェルターに保護された映子は、和之との離婚を決意するが…</p>
<p>『おくジラさま ふたつの正義の物語』 佐々木芽生 捕鯨を守りたい日本人とそれを許さない外国人という単純な図式ではなく、賛否に縛られない多種多様な意見を取材。歴史・宗教・イデオロギー、自分と相容れない他者との共存は果して可能なのか。</p>	<p>『光のどこにいてね』 一穂ミチ たった1人の、運命に出会った。どうして彼女しかダメなんだろう。どうして彼女じゃないと、私は幸せじゃないんだろう。運命に導かれ、運命に引き裂かれるひとつの愛に惑う二人の四半世紀の物語</p>
<p>『母ちゃんのフラフープ』 田村淳 親が死ぬのはずっと先のことだと思っていた。だけどその日は容赦なく訪れる。そのときどんなお別れができるだろう。田村敦が母との別れについて綴る。</p>	<p>『プリテンド・ファザー』 白岩玄 恭平と章吾。正反対の同級生。唯一の共通点は1人で子どもを育てていること。とくに「父親」になれていたはずの2人がシングルファーザーどうしの暮らしを通して「親になること」と向き合う、拡張家族の物語！</p>
<p>『ジェンダーで読み解く男性の働き方・暮らし方』 多賀太 ジェンダー格差大国ニッポン。妻の「イライラ」夫の「モヤモヤ」なかなか進まない男性の家事・育児参加。男性稼ぎ手社会を壊すことが男性の生きづらさを解消する。ジェンダー平等に向けた本気の働き方・暮らし方改革を！</p>	<p>『見つけたいのち、光』 飛鳥井千砂 亜希と茗子の唯一の共通点は育児ブログを書くこと。一人は親しみを持って。一人は憎しみを抱えて。ある日、ブログ執筆が失踪したことをきっかけに、二人の人生は交わり、思いがけない地平へと向かう。</p>
<p>『失敗しないためのジェンダー表現ガイドブック』 新聞労連ジェンダー表現ガイドブック編集チーム 「美しすぎる〇〇」がダメな理由がわからない。女医、女子アナと無意識にいつてしまう。「女性ならではの気配り」はほめ言葉のつもりだった？ 女兒の出産祝いになんとなくピンクを選んでしまう…ひとつでも当てはまる人、アウトです。ぜひ本書を一読することをおすすめします。</p>	<p>『ミラーワールド』 柳月美智子 「だからいつまでたっても、しょうもない女社会がなくなっていくのよ」「男がお茶を汲むという古い考えはもうやめたほうがいい」女が外で稼いで、男が家を守る。それが当たり前となった男女反転世界。日々男女格差を見聞きしながら、著者がずっと考えていた物語。</p>
<p>『自転しながら公転する』 山本文緒 東京で働いていた32歳の都は実家に戻り、地元のモールで店員として働き始めるが…。恋愛、家族の世話、そのうえ仕事もがんばるなんて、そんなの無理。答えのない問いを生きる私たちをやさしく包む物語。</p>	<p>『夜に星を放つ』 窪美澄 かけがえのない人間関係を失い傷ついた者たちが、再び誰かと心を通わせることができるかを問いかける短編集。</p>

【発行】 下関市役所 本庁舎西棟4階 人権・男女共同参画課
〒750-8521 下関市南部町1番1号
TEL 083-231-7513 FAX 083-231-1437
E-MAIL smjinken@city.shimonoseki.yamaguchi.jp